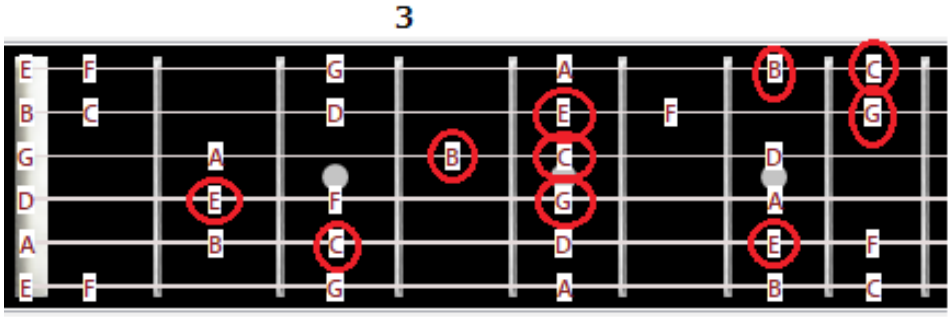
Vol.12　XM7 コードの構造を確認してみる　～その 2～

では、vol.12、始めていきましょう。

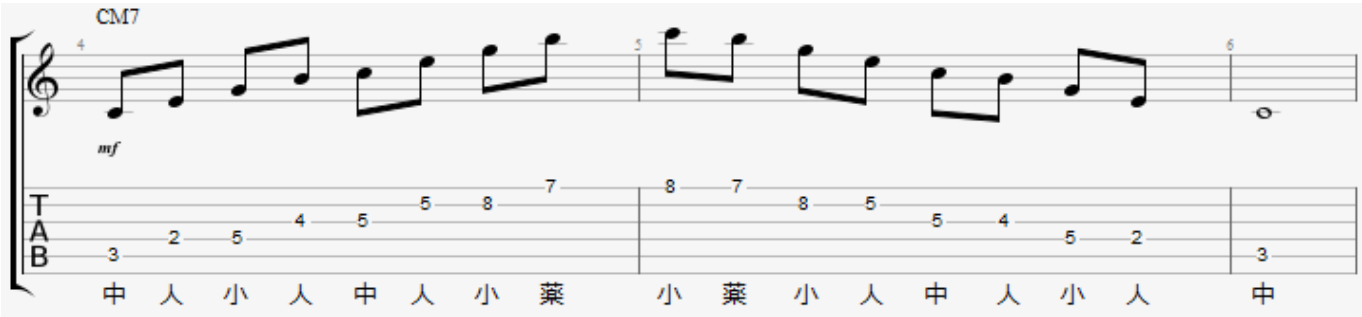
前回に引き続き、メジャーセブンスコード(XM7)の構造をベースにした奏法をやっていきます。

今回は、5 弦ルートのポジションでトニックは C 音、指板上では構成音をこの様に見て下さい。

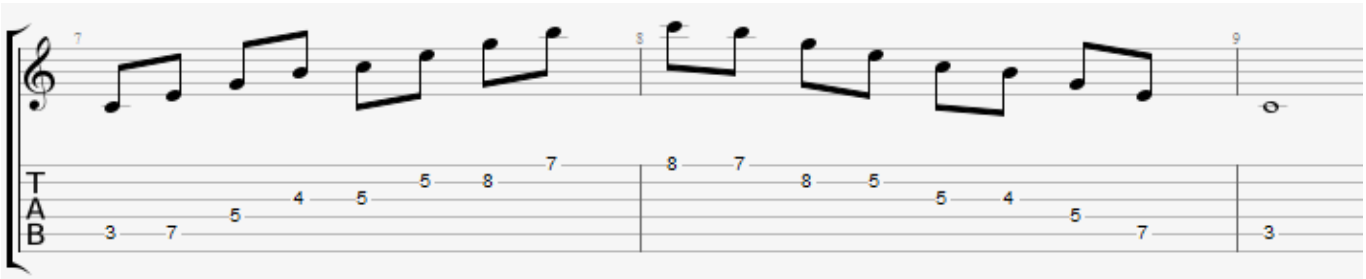


ここで CM7 アルペジオを弾く場合、代表的なものとしては、以下の様な弾き方が存在しますね。

譜例 1



譜例 2



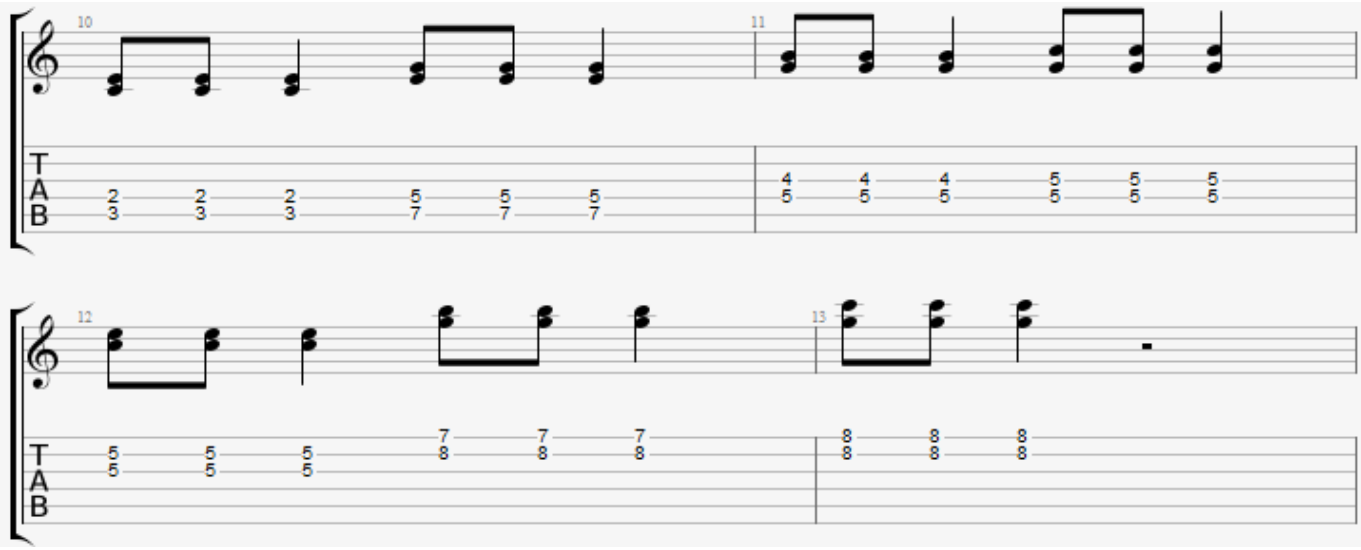
譜例 2 の指使いは、5 弦 7 フレットに小指、4 弦 5 フレットに中指が来たら、後は譜例 1 と同じです。

一応、指定はありますが、スライドなどを含めた場合、他のパターンも考えられますね。

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved

続いて、ここ周辺の CM7 のコード・トーンを使ったダブルストップの譜例です。

譜例 3



前回と同じく、譜割りは便宜的なものになっているので、形に慣れてきたら、音をバラして弾いてみたり、複数のポジションをスライドなどで繋げたりと、音楽的な弾き方としても使ってみましょう。

さて、前回の譜例もそうでしたが、テキストでやっている事は、実質、CM7 コード上で CM7 のアルペジオを弾いている事になりますね。

これはこれで良いのですが、例えば、他のコードの上でこのアルペジオを使うと、どんな響きになるのか？こう言った事も試してみましょう。

例えば、C キーの曲があるとして、ダイアトニックコードである Dm7 や FM7 等の上で CM7 のアルペジオを弾いてみる、と言う事です。

CM7 の構成音 C、E、G、B を Dm7 上で弾くと、ルートの D 音から見ると、C＝m7th、E＝9th(M2nd)、G＝11th(P4th)、B＝13th(M6th)となり、Dm7 に対して美味しいテンションばかり弾いている状態になります。

ここ最近やっているアルペジオ系のプレイでは、この様な面白い関係性が作れることが多々あるので、研究してみるとプレイの幅が広がるでしょう。

では、今回は以上になります。

ありがとうございました。

大沼

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved